

本時のねらい

漢字をへんやつくりの仲間に分けるを通して、漢字の構成について理解することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・同じ読み方の漢字をできる限りたくさん集め、ロイロノートの Y チャート図を活用して、分類分けをすることができる。
- ・自分が気づいたことを、漢字をまとめた Y チャート図に書き込み、漢字の構成について理解することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを確認する。 めあて「漢字を仲間に分けよう」 ・「野球」の「球」と「救出」の「救」の共通する読み方を確認する。 ・「求」という部分が共通することを確認し、同じ「キュウ」と読む漢字が他にもあるか、確認する。【写真 1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「野球」の「球」と「救出」の「救」の読み方を確認し、共通する部分を尋ねる。 ・同じ「キュウ」と読む漢字が他にもあるかタブレットの検索で確認する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの Y チャートを使い、集めた「キュウ」と読む漢字を分類ごとにまとめる。 ・完成したら、「ハン」と読む漢字を同じ手順で分ける。 ・自分が気づいたことを、それぞれの漢字についてまとめた Y チャートに記入する。 <p style="text-align: right;">【写真 2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの Y チャートを使う。 ・まとめた 2 つの Y チャートに気付いたことを直接記入していく。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「板」を例に、漢字には「部首」と「音を表す部分」があることを知る。 ・振り返りをシートに書き込む。 <p style="text-align: right;">【写真 3】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「板」を例に、漢字には「部首」と「音を表す部分」があることを伝える。(必ず「音を表す部分」があるとは限らないことも伝える。)

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】「キュウ」と読む漢字をインターネットで調べている様子



【写真 2】「球」と似ている漢字と似ていない漢字を思考ツールを使って分類している様子



【写真 3】振り返りを記入している様子

児童生徒の反応や変容

- ・「求」「球」を並べると、どちらも「求」が使われ、読み方も「キュウ」だと気づくことができた。
- ・「キュウ」という読み方から「求」の部分は音を表すこと、残りの部分は意味を表していることに気付くことができた。
- ・支援学級の授業で思考ツールを活用することで、操作や使用方法に慣れることができた。交流学級の授業で思考ツールを使用するときにスムーズに活用できるようになると考えられる。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・子どもの関心のある漢字を選択する。
- ・仲間はすれの漢字があるので、必ず「音を表す部分」があるとは限らないことも伝える。
- ・思考ツールを用いることで、思考スキルの 1 つである「分類する」を視覚化し、考える活動の手助けをすることができたと考えられる。
- ・分からない漢字をインターネットで調べることができるスキルが身に付けば、普段の生活でも漢字を調べる方法の 1 つとなることを期待したい。